

November 19, 2020

**【前日の為替概況】ユーロ円、続落 ダウ平均失速を嫌気**

18日のニューヨーク外国為替市場でユーロ円は続落。終値は123.08円と前営業日NY終値(123.60円)と比べて52銭程度のユーロ安水準だった。昨日からの軟調地合いが続き、じりじり上値を切り下げる展開となった。上昇して始まったダウ平均が失速したことも嫌気され、一時123.02円まで値を下げた。節目の123.00円を前に一巡後は下げ渋る場面があったが、ダウ平均が引けにかけて350ドル超安まで下げ幅を広げたため、戻りは鈍かった。

米製薬大手ファイザーが開発中の新型コロナワクチンが最終分析での予防効果が95%に達したと発表すると瞬間的に反発したものの、長続きしなかった。

ドル円は5日続落。終値は103.82円と前営業日NY終値(104.19円)と比べて37銭程度のドル安水準だった。クロス円が全般重い動きとなるとドル円もじり安の展開となった。一時103.65円まで下押しする場面があった。もっとも、対ユーロを中心にドル高が進んだため、引けにかけては103.80円台まで下げ渋った。

ユーロドルは5営業日ぶりに小反落。終値は1.1853ドルと前営業日NY終値(1.1862ドル)と比べて0.0009ドル程度のユーロ安水準だった。株安に伴ってリスクオフのドル高が進んだ。引け前には一時1.1849ドルまで値を下げた。

**【本日の東京為替見通し】感染第2波とトランプ氏の負のレガシーがドルの上値を圧迫か**

本日のドル円も上値が重い。米国の新型コロナウイルスの感染第2波は深刻で、17日にはこれまでで最高となる1707人の死者を記録している。NY市でも一定以上の割合での感染が確認されたことで公立校が休校となるほか、各州で独自の対応を行い、米国も再び経済縮小に向かっている。感染は米議員にも広がり、87歳のアイオワ州選出上院議員が陽性となったほか、複数の下院議員の感染も確認されている。感染第2波の影響で、ウイルス・ワクチン開発のポジティブなニュースにも市場の反応は限られドルの上値が重い。

また、トランプ現大統領の負のレガシーもドル売り要因になっている。昨日の英タイムズ紙はアフガニスタンとイラクからの米軍撤退だけでなく、大統領は辞める前にイランへも攻撃する恐れもあり同盟国が危惧している、と掲載している。トランプ氏は自分の敗北をまだ認めていないが、仮にホワイトハウスから追い出されても自分を敗北させたバイデン氏への嫌がらせで、次期政権の足を引っ張る行動が、残りの2カ月続く可能性が高い。中東以外にも、先週中国人民解放軍との関係が深い中国企業が発行する株式などへの投資を禁止する大統領令に署名したが、より厳しい制裁を中国に課す可能性があることもドル売り要因になりそうだ。

なお、トランプ氏はウィスコンシン州の2地区での再集計を要求している。再集計には790万ドルの資金が必要だが、このうち300万ドルはトランプ氏のキャンペーンからすでに支払われている。再集計を行うかの判断はまだ下っていないが、もし行われる場合は新たに13日程度の日数を要することで、より米政局が混迷を深め、ウイルス対策の遅れや次期政権への移行とその後の政権の進行に大きな痛手となりそうだ。

ドル円以外の通貨では、本日の日本時間9時半頃に豪州から10月の雇用統計が発表される。豪州もウイルスの感染の影響を抜け出せていないことで、失業率が高まった場合は豪準備銀行(RBA)のマイナス金利導入により近づき、豪ドルの上値を抑えることになるか。

また、欧州入り後には欧州連合(EU)サミットがオンライン形式で行われる。英国との交渉などがどの程度進むかにより、ユーロとポンドが本日は激しく動く可能性もある。

**【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間**

&lt;国内&gt;

008:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況(週次・報告機関ベース)

## &lt;海外&gt;

- 09:00 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、イベントに参加
- 09:30 ◎ 10月豪雇用統計（予想：失業率7.2%/新規雇用者数▲3.00万人）
- 16:30 ◇ 7-9月期スイス鉱工業生産指数
- 17:00 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、議会証言
- 17:30 ◇ 10月スウェーデン失業率
- 18:00 ◇ 9月ユーロ圏経常収支（季節調整済/季節調整前）
- 19:00 ◇ 9月ユーロ圏建設支出
- 20:00 ◎ トルコ中銀、政策金利発表（予想：15.00%に引き上げ）
- 22:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数/失業保険継続受給者数（予想：70.7万件/647.0万人）
- 22:30 ◎ 11月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数（予想：22.0）
- 22:30 ◎ メスター米クリーブランド連銀総裁、講演
- 未定 ☆ 南アフリカ準備銀行（SARB）、政策金利発表（予想：3.50%で据え置き）
- 24:00 ◎ 10月米景気先行指標総合指数（予想：前月比0.7%）
- 24:00 ◎ 10月米中古住宅販売件数（予想：前月比▲1.2%/年率換算645万件）
- 24:00 ◎ ビルロワ・フランス中銀総裁、講演
- 20日 01:00 ◎ シュナーベル ECB 専務理事、講演
- 20日 03:00 ◎ ローゼングレン米ボストン連銀総裁、講演
- EU 首脳会議（オンライン）
- 米財務省2年、5年、7年債入札条件

20日

## &lt;国内&gt;

- 08:30 ☆ 10月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合）
- 08:30 ☆ 10月全国CPI（生鮮食料品・エネルギー除く）

## &lt;海外&gt;

- 09:01 ◇ 11月英消費者信頼感指数（Gfk調査）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

18日 05:33 バーキン米リッチモンド連銀総裁  
「米経済、厳しい数カ月となるだろう」  
「広範囲にコロナワクチンが行き渡るのは夏以降」

18日 08:01 バーミンガム豪貿易相  
「バイデンの下での米中関係の急速な変化を予想していない」

18日 08:49 ロウ豪準備銀行(RBA)総裁  
「豪州は中国との強固な貿易関係を維持する必要がある」  
「政府が経済を支えるために借り入れを行うことは完全に正しい」  
「債権の買入れは、政府の借り入れコストを下げるだけでなく、金利全体を押し下げる」

18日 10:30 黒田日銀総裁  
「大規模な金融緩和は当面続けていく必要がある」  
「金融緩和の出口議論は現時点では時期尚早」  
「株式市場のリスクプレミアム拡大ない状況なら、ETF 買入れしないことに」

18日 11:16 南オーストラリア州首相  
「コロナ感染拡大を抑制するための6日間の移動制限を宣言」

18日 19:42 ホールデン英 MPC(金融政策委員会)委員  
「英国の経済成長は、第3四半期時点の予想を上回っている」  
「マイナス金利には、重要な恩恵がある」

18日 21:13 エルドアン・トルコ大統領  
「我々の目標は、一桁のインフレ率」  
「我々は、物価と財政の健全性を目指す」  
「9月の経済指標は、景気回復を示唆」  
「投資家は高金利に押しつぶされてはならない」

18日 21:18 ドムブロフスキス欧州委員会副委員長  
「我々は、英国との通商合意の最終段階に差し掛かっている」

18日 23:13 ロペス・オブラドール・メキシコ大統領  
※麻薬取引への関与などの疑いで米国が拘束したシエンフエゴス前メキシコ国防相について  
「(米で起訴取り消しとなったが)米国と取引は何もしていない」  
「前国防相がメキシコに戻ることは免責を意味せず、今後調査が開始される」  
「軍からの圧力などは受け入れない」

19日 00:37 米財務省  
「イランに絡む複数の個人や関係機関に対し制裁を課す」

19日 00:40 ポンペオ米国務長官  
「米のイランへの圧力は効果的」

19日 02:30 ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁  
「財政支援策なしとなれば今後数カ月で経済活動が減速する可能性も」  
「ワクチン開発のニュースでやや楽観的に」  
「高インフレを起こさずに労働市場の改善をさらに推し進めることができる」

19日 03:06  
「誰もが予想したよりも経済回復のスピードは速いが、まだ厳しい景気後退のなか」  
「完全雇用に戻るには数年かかるだろう」  
「FRBの政策修正は経済状況を鑑みて行う」

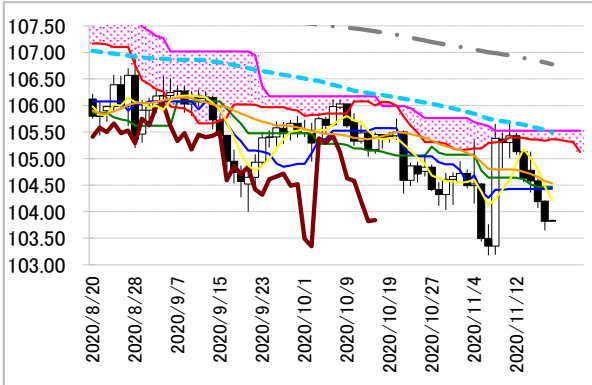
19日 04:10 ブラード米セントルイス連銀総裁  
「金融政策は非常に効果的」  
「経済全体では大変上手く適応している」  
「今年のGDPは2.5%減を予測」

19日 04:45 バーキン米リッチモンド連銀総裁  
「景気回復が確認されるまで金融政策は緩和的なまま」  
「消費の回復は雇用よりも速い」

19日 04:52 米政府高官  
「カナダとメキシコへの陸路での渡航制限措置は12月21日まで延長されるだろう」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

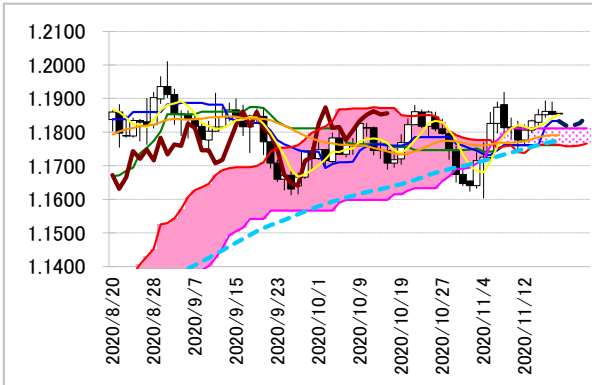


### <ドル円=5日線の低下ともない下値探る動き>

下影陰線引け。104.40円台の一目均衡表・転換線付近から下入れ、9日の大陽線の上昇幅を縮小する流れが続いた。

目先のすう勢を示す5日移動平均線の低下をともない下値を広げる動きが続くか。戻りがあっても、同線付近で売り圧力にさらされそう。

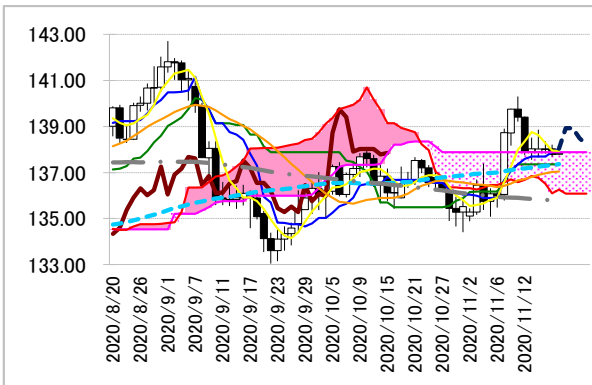
レジスタンス 1	104.21(5日移動平均線)
前日終値	103.82
サポート 1	103.33(ピボット・サポート 2)
サポート 2	103.18(11/6 安値)



### <ユーロドル=転換線とともにいったん下押し展開も>

上影小陰線引け。高値は1.1891ドルまでと、前日の1.1894ドルに続き、1.19ドルの大台を目前に上値が重い。転換線は現水準1.1833ドルでいったん頭打ちとなり、明日から週明けまでいったん1.1820ドルへ下押し見込み。同線とともに相場もいったん小緩むことが想定できる。しかし、上限を1.1812ドルとする一目・雲付近で底堅さを示すとみられ、転換線とともに再び上値へトライする展開を予想する。

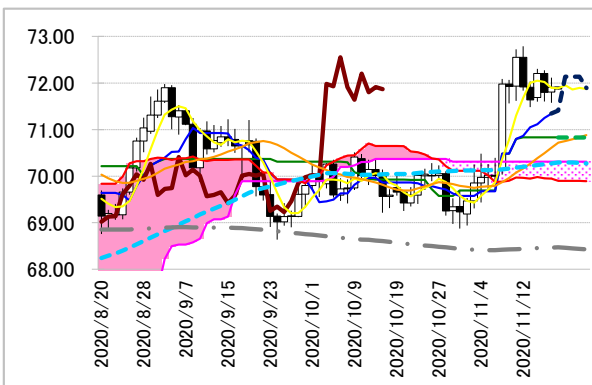
レジスタンス 1	1.1894(11/17 高値)
前日終値	1.1853
サポート 1	1.1803(11/11-17 上昇幅の61.8%押し)



### <ポンド円=雲の上限付近で転換線の克服を狙う>

小陰線引け。一目均衡表・雲の上限137.88円前後のみ合いが続いている。戻りは鈍いものの、雲に加えて上昇傾向の一目・転換線も下値の底堅さに寄与。本日138.04円へ水準を切り上げた同線を割り込むことは考えられるものの、雲上限付近の底堅さを失わなければ、ほどなく低下へ転じる転換線を再び上回ることは難しくないだろう。

レジスタンス 1	138.36(11/17 高値)
前日終値	137.79
サポート 1	137.35(日足一目均衡表・基準線)



### <NZドル円=直近高値の攻略がポイント>

小陽線引け。72円前後でもみ合い、次に動き出す方向を探る状態となっている。下方方向を試しても、本日71.41円へ上昇した一目均衡表・転換線近辺で底堅さを示すとみる。ただ、戻りが12日につけた直近高値72.79円に届かなければ、転換線は来週後半には失速。相場も下向きの流れを強める可能性がある。

レジスタンス 1	72.31(11/16 高値)
前日終値	71.91
サポート 1	71.48(11/13 安値)

